令和４年度　淡路くにうみ夢フォーラム　結果概要

１．日　時　令和５年３月８日（水）14:00～16:30
２．場　所　南あわじ市広田地区公民館
３．出席者　地域づくり活動応援事業助成団体（ビジョン推進チーム）３６名、一般３６名、
支援会議委員３名、来賓２名、パネリスト４名、コーディネーター１名、
藤原県民局長、山内交流渦潮室長、本庁・事務局７名　　計９１名
４．内　容
（１）第１部　地域づくり活動応援事業（ビジョン推進チーム）活動報告会
①淡路米山ため池保全ネットワーク
②コミュニティスペースエモラボ
③志童サポートクラブ
④鶴澤友吉会
（２）パネルディスカッション　「わたし×2050 年の淡路島」
〇コーディネーター
兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授　　山本　聡
〇コメンテーター
淡路県民局長　　藤原　祥隆
〇パネリスト
鶴澤友吉会　　木田　朱美
アクアヴェルデAWAJI　　豊田　公隆
あめつち農園　　塩田　宏紀
コミュニティスペースエモラボ　　江本　暁宣

（山本氏）　皆さんそれぞれ地域で活動されているが、取組からみえてくる淡路島の現状と課題について感じることは何か。
（木田氏）　現在、農業をやりながら三味線奏者として浄瑠璃の魅力発信をやっている。30 年間淡路人形座で活動したが、コロナ禍で休館になり、お客さんも入らなくなって、人生観が変わって人形座を退団した。
農業しながら、何かできることはないかと模索する中で、Youtube で浄瑠璃のライブ配信を行った。そのときに、たくさんの地域の方が応援してくれて励みになったし、地域力やふるさと愛、子ども達の情緒を育てるために伝統芸能の必要性を強く感じた。また、コロナ禍で、時間の使い方を重要視されるようになり、発信力が求められていると感じた。
活動の中で私が考える淡路島の課題としては、挑戦する人、夢を語る人へのサポートや、指導者の人間力を磨くことが必要だと感じる。
（山本氏）　一旦人形座を離れてみたからこそ、わかったことがあったということか。
（木田氏）　そのとおりで、配信を通して応援されたり、見てくれたりすることで、自分ひとりでは何もできないと感じた。見守ってくれる地域力や、応援してくれ

る人の力は大事だと痛感した。

（豊田氏）ひとりではなにもできないというのは自分も直面する。農業経営でも、このぐらい売り上げたいと想像しても、予算や面積が足りないなどの問題が多々起きる。そういうときは、グループ（「人農地プラン」）で話し合う。できる・できないではなく、するにはどうすればいいかを議論する中で、今に至っている。農機具に関しても基本的にシェアリングで、協働でやっているイメージ。基本的に話し合っているグループは、地域のコミュニティと連動していて、一度話してみると課題は自然に解決していると感じる。

（山本氏） 塩田さんはどうか。

（塩田氏） 移住してきてから 10 年になるが、それから新しく 6 名が農業を志して入ってきた。みんな問題として抱えているのは、迫ってきている自然のこと。1970 年代は山頂付近まで畑があったが、だんだんと山下まで自然が迫ってきている。私の世代で今ある自然と人の境目をつくっていかなければいけないと思い、農業の傍ら竹林整備等をやっている。

淡路島で農業をやりたい若者も多くなってきているが、自然環境と人が共存できるような環境作りが必要で、農業をやるためのインフラ整備が課題。農業の市場価値だけでない、農の価値を見いだしていくことが大事だと思っている。

また、淡路島は伝統や風習を通して、人と自然が通い合っていて、それが現在まで継承されている。私自身も移住者として入ってきて、そういった伝統に触れさせてもらって気づいた。地域に根ざしている伝統を自分なりに意味を持たせて、後生に伝えていきたいと思っている。

（江本氏） 私は地域で色んなイベントを企画している中で大事にしていることは、運営している自分たちが楽しむということ。阿万地区は、高齢者は非常に元気で、朝は散歩、昼からグランドゴルフ、夕方から卓球バレーをして楽しそうにしている。

一方で、子育て世代は、仕事・子育と忙しなく楽しそうに見えない。

淡路島は外から見るとその魅力が感じるが、日常に追われていると魅力を実感しない。地元にいる方が誇りに思わないと、周りの方、移住されてきた方も違和感を招いてしまう。それをどう打開するのが課題。解決策としては、楽しむことと伝統を知って触れること。一緒に活動している方がいつも言っているのが、「ユニバーサルスポーツの活動は、自分のためにやっている。明日何か起こって車椅子になるかもしれない。車椅子の方が住みやすい世界にするということは、結局は 10 年後の自分の住みやすさにつながる」。模索しながら楽しんで活動を続けている。

（山本氏）課題を解決するには、マンパワーがやはり必要だというお話も中にはあったが、人を集めるうえで工夫されていることはあるか。

（木田氏）私は、結構他力本願で、自分ができないことは、できる人を探して助けても

らおうとしている。そういう意味で言えば、得意な人が得意なことができる組織を作ることが大事だと思う。人集めに関しては、自分の弱みを見せられる環境づくりが必要。

（山本氏）　塩田さんはどうか。

（塩田氏）　移住した時に、農業について地域の方にすべて教えてもらった。優しさをすごくもらったので、最近は淡路に農業をするためにやってくる人も多いが、やってきた人に自分も同じようにやさしさを分け与えていきたい。最初は、機械も土地もないし、集落の習わしなども分からないところから始まるが、親身になってやって相談に乗ろうと思っている。新しく集落に入る人のために、「宇谷のみらいを創る会」という団体で、宇谷の行事や集落の習わしなどを記載した教科書を作った。

地域の方が、自分の住んでいる地域に危機感をもって、移住者にも分け隔てなく一緒になって取組んでくれているので、自分も感謝して先陣切って関わっていこうとしている。

（江本氏）　私は、活動の中で、子どもにも高齢者にも役割を持たせて、参加している意識をもってもらうように心がけている。阿万地区では、カブスカウトが盛んなので、イベントでは協力して一緒にやっている。どの地域でも根ざして活動している団体があると思うので、一緒に協力してお願いしてやっていけばいいかと思う

（豊田氏）　私は、地の人間なので、ある程度付き合いがあれば、いざというときに協力してくれる。それも淡路島のポテンシャルなのだと思う。

（山本氏）　藤原局長、ここまでお話を聞いていかがか。

（藤原局長）　私は去年の４月に淡路に赴任してきたが、淡路は歴史も深いし、引き継がれている伝統価値も高いと感じている。ここまでお話を聞いて、人の持つ魅力が大きいのかなと思った。豊田さんがおっしゃたように、みんなと話していたらなんとなく課題が片付いているなというのが、淡路の人からとても感じられる。深刻になったあげくにあきらめるのではなく、なんとかしようとするし、なんとかなるのではないかと思っているような気質を感じる。また、木田さんと塩田さんもおっしゃっていたように、得意な人に頼ったり、外からきた人の力を借りたりすること対して、ハードルが低いのではないかと感じる。以前、どこかの地域のニュースで、移住者７箇条というのをつくって、それを守ってくれなかったら受け入れないというのが話題になったが、あまり淡路からはそういうことが感じられず、人の持つ魅力というのが淡路の大きな魅力なのだと感じた。

また、淡路では人口減少が課題だが、先ほど江本さんが、働き盛りが楽しんでいないというお話があったが、個人的に感じているのが、子どもをもうけたくないとか、結婚したくないという人が増えてきているのは、誰かからそういう指摘をされているからというのを聞いたことがある。結婚がいいものだというのが若い人はわかっていない。そういうモデルとなる人が地域にい

てくれると元気な地域になるのではと思う。逆に言うと、行政ができることは、あくまで応援やお手伝いの部分であって、地域で中心になってやってくれる方がいてく れないと、地域が元気になっていくのは難しいのかなと感じた。

（山本氏）　最後に「2050 年どのような淡路島になってほしいか」について、フリップに記入して木田さんから順に発表いただきたい。

（木田氏）　「高齢者になるのがわくわくする島」

どこにいっても高齢化社会や後継者不足という話が出て、年をとるのが悪い気がしてくる。高齢になってもわくわくする島を目指すために、わからないことは人に頼れる若者がいる、言いやすい環境をつくることが大事だと思う。

（豊田氏）　「関係人口が島内人口の〇〇〇〇倍になったらいいな」

関係人口が島内にいると、自分たちが作った食材が食べてもられる機会が増えて、サンセバスチャンのように淡路の食や文化が注目され、広がっていく。そうなると、人口が減っていったとしても、淡路で農業やろう、漁業やろうという若者が増えて、地域が盛んになるのではと思う。

（塩田氏）　「人と自然が共存できる。次世代が自慢できる場所に。水土と風土で循環できるように。」

色んなところでワークショップをしても、人と自然を守りながら新しい風を取り入れて次世代に残していきたいという思いがみんなにあって、私としても守っていきたいと思っている。あとは、電柵のない畑で農業をやりたい。自分は移住者だが、子ども達は淡路で生まれたので、子ども達が大人になってもふるさと最高と思ってもらえる場づくりをやっていきたい。

また、移住して思ったのが、淡路の山は、小さな山でも多種多様な植物が育って、自然の多様性に富んだ地域だと感じた。風土だけでなく水土も豊かなので、うまく利用して事業化して、自分なりの農の生業を作っていきたい。

（江本氏）　「若い世代がイキイキと地元の『にぎわい』は地元の人間が率先してつくる」

何歳になっても、若い世代と一緒になってやっていくということと、地元の人間が、移住者や若い人たちと一緒になって地域の時代にあったコミュニティをつくっていくことで、全世代がイキイキし、誇れる島になっていくと思う。

（山本氏）　ご自身のありたい部分と、社会がやっていかなければならない部分の２段階の意見をいただいた。いずれもなくてはならないもので、絶やさないように次世代につなげることが淡路島の発展に繋がると思う。自分自身も移住者で、非常に興味深くお話を聞かせていただいた。

会場のみなさんも、パネリストのお話を聞いて共感することや、感じることがあると思う。本日のお話を踏まえて、お配りしている付箋に、「2050 年どのような淡路島になってほしいか」を記入いただきたい。終了後に書いたものを模造紙に貼って全体で共有してまとめにしようと思う。

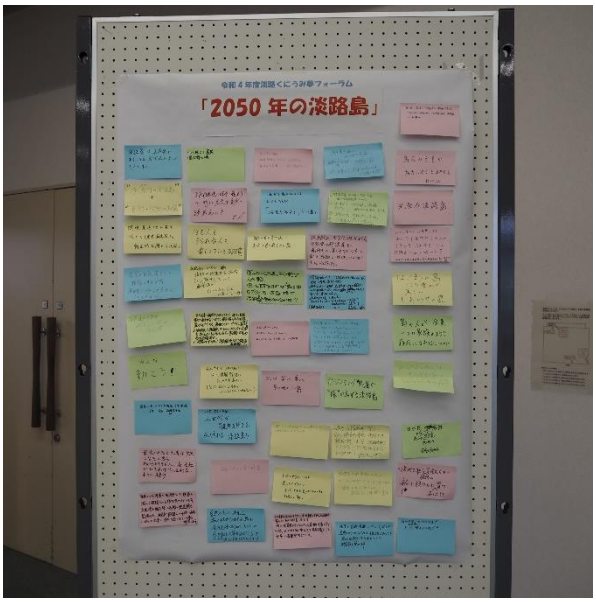
本日はありがとうございました。

【会場のみなさんが描く「2050 年の淡路島」】
・元気な淡路島
・小さい子からお年寄りまでみんな（全世代）の人がキラキラ、活き活きしている淡路島であってほしい
・こころ豊かで美しいしあわせの島
・シニア、大人、子どもの３世代が魅力を持てる、感じられる淡路島に
・若者があこがれる半都会生活環境、子育て、雇用、高齢者支援
・毎日が楽しく暮らせる島
・世代間を感じない共に生きる淡路島
・次世代を担う子どもたちが安全で健やかに安心して育つ島
・自分のやりたいことを楽しんでできる。そして、それを支えることのできる島。
・それぞれに助けあい、共に課題解決に向かえる島に。（自助・共助・公助のバランスのとれた地域へ）
・おいしく楽しく美しく居心地のいい島
・ポジティブ思考の“環”が広がる淡路島
・子ども達の未来が素晴らしいものになってほしい
・若者が自由、活発に活動できる地域
・淡路島は兵庫県であることを全国民に知ってもらいたい
・“今、流行の淡路島”＋“自然・伝統の淡路島”
・環境先進地になり、様々な（農業・観光塔）の特区的な島になってほしい
・３K（環境・健康・観光）で明るく元気で安全な淡路島に
・住む人も訪れる人も楽しんでいる淡路島
・島の人が全員一つの家族のような存在になればいい
・助け合い、支え合い、利用し合い、我が儘を言い合い、そういうことに躊躇なくものを言える社会、淡路島になってほしい
・これから生まれてくる子ども達が「好きやねん！」という島に
・地域住民のつながり、移住者とのつながりを大切にし、みんなで助け合える元気いっぱいの淡路島
・一次産業が活気溢れ、関係産業や関係人口の増加等でにぎわいのある島
・放棄農地のない花いっぱいな島
・困ったことがあったら話す人がいる。困った顔をすれば声を掛けてくれる、お互い様が淡路島の魅力になれば
・都会の色に染まらない島
・全ての地域が活き活きとした淡路島
・60 歳台もチャレンジできるサポート体制、活躍の場がある淡路島であってほしい。
・少子高齢化を嘆くのではなく、高齢者が元気で生きがいを持って生き生き暮らせる淡路島であってほしい
・自然と人が共生し、海と山がつながる島で、食の恵みがあふれ、人と人がゆとりを持って暮らせる島

開会：局長あいさつの様子

第１部活動報告会の様子

第２部パネルディスカッションの様子



会場のみなさんが書いた付箋